



【2017-04-26】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『湯西川温泉と奥日光の春』

長野修二

湯西川温泉と奥日光の春

先日、湯西川温泉へ行ってきました。

この地は「奥鬼怒川温泉郷」といわれる温泉地のエリアであり、日光国立公園の中にあります。

「[湯西川温泉](#)」は「湯西川」という名前の由来にある湯西川の渓谷沿いにある温泉地で風情溢れる温泉地です。

はじめて訪れた場所ですが、2012年に[湯西川ダム](#)建設に合わせて県道249号線の新道整備が進められ、新たな道路が2011年に開通しています。

国道121号線よりも道幅が広く快適なドライブができます。

国道121号は[五十里湖](#)沿いの切り立った山肌を縫うように走りますからこちらの運転は相当疲れます。



他方、県道249号（新道）は湯西川湖沿いの道幅が広い道路を走りながら絶景がみられますし、山間の秘境をまじかに感じることができます。途中トンネルも多いのですが、トンネルを抜けるとダム湖に架けられた橋梁を渡りますのでそこからの眺めがまたとても雄大でしょうか。





道の途中にあるチェーン装着場に立ち寄れば、4月にもかかわらず雪景色の山並みをみることができます。

さらに眼下には、エメラルドグリーンの湖面をみることができ、水鳥達の優雅な舞をみることもできます。



昨年行く予定だったところでしたが、昨年は予約が取れなかったのが今年になってしまいましたが、温泉も素朴な感じで趣があり、渓谷地ならではのよさがあります。

4月上旬のこの時期でも宿の周りには残雪があり、宿の屋根から落ちた雪の量は相当なものですから、冬の積雪は推して知るべしでしょうか。露天風呂でいっしょになった人の話では、12月、1月は一面雪景色でなにもなく、露天風呂も真っ白な雪の中にぽんとあるそうです。

九州育ちの私には4月に雪があることが想像を絶することであり、雪を知らない育ちでも宿のまわりや山々の残雪を目にすれば、冬の景色は想像できるようになるものです。

この旅は湯西川温泉と近隣の川俣温泉近くにある泉質に特徴がある公共の温泉に入ることを考えていましたが、残念ながらこの浴場は改修中で

入浴を断念することになりました。

そんなわけで本来の目的地とは違いますが、この時期の奥日光へいってみることにしました。

中禅寺湖まではこれまでもいったことはありましたが、その先がどのようなになっているのか、また人がまばらなこの時期の奥日光と途中にある戦場ヶ原の景色をみてることにしました。

中禅寺湖の景色も忘れてしまっていましたし、華嚴の滝もみたことがなく、いろは坂を登れば、すぐに華嚴の滝になるので一度見ておくか、ということで訪れることにしました。



テレビのニュースで見る滝とは違いやはり実際にみるとその壮大、雄大さはまじかに見てはじめて実感できるものです。





さらに滝の見学をする観瀑台自体が溪谷に突き出しており、滝もさることながら観瀑台からみる景色はこの世のものとは思えない景観です。かなり身がすくむ状態でしょうか。



滝までのエレベータは昭和5年（1930年）に建設されており、高さが100mと超高層ビル並みです。

当然、渓谷の岩盤をくり抜いて建設したということでしょう。

滝の景色はすばらしいのですが、観瀑台の恐怖が身体に襲い掛かります。

現在は高速エレベータでわずかわずか1分で降りることができますが、観瀑台はほんとうに大丈夫なのか、と早々に逃げるように滝とさよならしてきました。

一度は経験しておくことをお勧めしますが、高所恐怖症の方は観瀑台から下の渓谷を眺めないほうがよいでしょう。

それでもエレベータ前の駐車場からみる華厳の滝もすばらしいものです。もっとも、紅葉の季節はさらにすばらしい景色がみられることでしょう。



人がいないところ、人が少ない季節が好きな私には観光地のすばらしい紅葉を眺めることはこれから先もないでしょう。

奥日光や戦場ヶ原へいく理由も人がいないことがその大部分ですし、どうしても多くの人達が訪れる景色とは違ってきます。

そんなゆったりとした時間の流れの中でみる風景が、私にとってはとても心地よいのです。

中禅寺湖湖畔を国道120号、別名[日本ロマンチック街道](#)沿いに左手に湖畔、右手にはホテル群を見ながらドライブしていると途中の山肌に残雪をみるようになります。

竜頭の滝をすぎればすぐにほぼ直線の道路になってきますが、そこが戦場ヶ原です。

この時期の戦場ヶ原は車の通りも少なく一面雪に覆われた広々とした風景だけが続く荒涼とした原野でしょうか。



まじかに見える男体山、遠くにみえる白根山、温泉ヶ岳など山々には当然のように残雪をはっきりとみることができます。

この時期鳥たちの声もなく静まり返った風景は、ただただ写真の中にわが身があるような感覚になります。



戦場ヶ原を過ぎれば、ミズナラ、ブナ、シラカンバ、カラマツなどの林が続きます。





これらの林を抜けると奥日光の湯ノ湖がみえてきます。

この湖の水の約90%は湧き水だそうです。

水深が浅いため冬季には全面結氷するようですが、4月のこの時期でも湖の一部には氷が漂っていましたし、水鳥達がそのうえに上がって休んでいるものもいました。





湖のそばには[奥日光湯本温泉](#)があり、日本ロマンチック街道は、この先金精峠を超えて[萱沼](#)へ続きますが、この時期は通行止めになっていました。この道路が開通するころには新緑が眩しい季節を迎えて、多くの人々がやってきて賑やかな高原の風景が広がっているのでしょうか。

機会があれば、この先へ行ってみたいくなるような豊かな自然が織りなす風景があり、また雪がなく人が少ない季節に訪ねてみたいものです。